

NEXT LEADER

2012年11月1日発行 2012年10月1日発売(毎月1回1日発行)

ネクストリーダー
November.2012 Vol.35

11

サロン環境
見えるものと
見えないもの

納得キャリアプランは
透明な人事評価から

女性が
生涯勤務できる
職場のヒミツ

風土も継承する
のれん分けFC

独立だけじゃない!
美容師の進む道

特集

働き方の未来図



右腕社員の未来図

「サロンで自己実現」 のススメ

サロンから独立。そんな王道をあえて選ばなかった3人が、サロンの残り方をさっくばらんに語る。

連載「No.2のチカラ」特別編

カンタロウ / LIM hair
×
七種 丈 / SARA
×
鳥井武司 / Happiness



株式会社サラ
取締役副社長
七種 丈

さくらさき 1973年12月28日、山口県出身。マインド美容専門学校通信課程卒業。現在、エグゼクティブディレクターとしてSARAの経営・デザインを統括しつつ、サロンワーカーとして各店舗を回る「現場の右腕」。

LIM hair
統括ディレクター
カンタロウ

かんたろう 1976年4月27日、福岡県出身。大塚中央理容美容専門学校卒業。1店舗を経てLIM hair入社。3月末に退社。個人としてLIM hairの店舗づくりに尽力する「マネジメントの右腕」。

株式会社ハビネスアカデミー
代表取締役
鳥井武司

とりいたけし 1980年3月15日、福岡県出身。福岡美容専門学校通信課程卒業。2店舗を経て、2002年にHappiness入社。現在、スタッフ教育を統括するハビネスアカデミーの代表を務める「教育の右腕」。

独立しなかった、その理由

カンタロウ(以下、K) サロンで修行を積んで独立、というキャリアが今までの美容師の王道。ほかにはそこからみ出ているけど(笑)、独立したいという気持ち、以前はありましたか?

七種(以下、S) 最初からなかったです。兄(小林治氏)がオーナー

のサロンに入社して、経営は兄、現場は自分の一人三脚でがんばっているかと考えていました。

鳥井(以下、T) ばくは独立志向が強かった。でも代表(谷口誠治氏)と聞くと、ここで生がらばろうと思うようになりました。

K ばくも、いつか独立して故郷の福岡に店を出そうというのが、最初掲げていた未来図。でも、オーナー

(西村徹也氏)と話してもI.Mという組織を大きくさせていく方が面白いんじゃないか?と考えるが変わっていききました。

S 2人の考えが変わったターニングポイントは何だったんです?

T ポイントというより、徐々にという感じ。代表はイケイケの性格で、課題をクリアしたら、何でも応えてくれるタイプなんです。

「これなら、独立しなくても自分がやりたいと思うことを実現できるな」と思えるようになって。

K 自分の転機期は、カリスマ美容師ブームのとき。独立する人が相次いで、サロン内の雰囲気も悪化していったんです(苦笑)。建て直したために「全員がいい美容人生を送れる会社づくり」を始める、これが楽しい。独立よりエキサイティング

LIMの独立支援システム



Happinessの独立支援システム



K 美容師が独立する理由は「お

最後に、今後の右腕論

現できる環境づくり」を模索してきた自分としては嬉しい結果です。

S なるほど。どちらも「一定の実績」という条件があるんですね。

K 実は、この制度を立ち上げてから完全独立をした人は1名のみ。現状、LIMに多くの人が残って

今、サロンはチーム運営の時代。トップダウンだけでは難しい。

(七穂)



もともと、対立もしますが。

S たしかに。はくらが右腕として仕事できるのも、やりたいことをさせてくれるオーナーだからこそ。

K だから逆に、今はオーナーがとても重要な時代。企業化しつつあるとはいえ、サロンのほとんどはオーナー企業。彼らの転取りでサロンのあり方が決まりますから。

S 信頼と実績の末の右腕キャリア



実績を出して、物言える環境をつくっていった。

(鳥井)

T 兄弟でも対立するんですか？

K 右腕の地位はもちろんオーナーから与えられたもの。でもみんな、無条件に得たものでは決してない。よく「カンタロウさんのサロンはオーナーさんの理解があつて羨ましい」と言われるけど、それはちょっと違うんです。オーナーと格闘した末に現在の関係がある。

S もちろん。SARAは自分以外にも数名の幹部社員がいるけど、いつも喧嘩っ酷々。でもみんな、大きな共通項が同じだから、最終的には丸く収まります。

T 上司は選べないけれど、上司に物を言える環境は自分でつくれます。「お前が言うならやってみるか」と言わせるような関係を持ち取ることが右腕には必要ですね。

K それ、すごくわかります。LIMは自分とオーナーとはまったく性格が違う。Happinessとは逆で、石橋をたたいて渡るタイプのオーナー。よくぶつかりますよ(笑)。でも「サロン全体のモチベーションを上げるためにどうすべきか」という方向性は同じ。だから対立しても、心の底でお互い分かり合っている。そんな関係。

S ところで独立支援のための社内システムってつくってます？ SARAでも本格的に始動させようと考えているんですよ。

T うちも同じ。方向性が同じだからこそ、言いたい放題の関係でいられる、と思うんです。もともと、そうなるまで大変でした。実績を重ね、信頼を勝ち取った末にやりた

T Happinessでも、FC制度を立ち上げようとしている最中。抜擢された者が店舗代表となり、一定の実績を挙げたらFCとして独立できるという仕組みです。

金」「自由」、そして「社会への発信」を欲しいと思うから。つまり、もしその3つをサロンにいなからにして得られれば、独立は考えないと思

す。外部としての視点もあつた方が、教育の統括者としてサロンを活性化できると考えました。

K 10年プランは保ちつつも、辞めたいためのシステムを今後整えていきたいですね。

K はくらは、いわばサロン内ではキャリアの1つの到達点。サロンの理念・哲学を体現しているとも言えます。はくらが沈めばサロンも沈む。だからこそ、サロン活性化のプロとしてどうあるべきか、姿を常に磨いていくことが不可欠なのだと思います。

K そうです。スタッフに「サロンにいても社会への発信は可能だ」と思わせたいですし、また感化させることでサロンの活性化にもつなげたいです。

座談会を終えて……

S サロン活性化のために、率先して発信していくというのも、今や右腕の大事な仕事の1つ。サロン活性化のプロとして何ができるか。これが右腕にもっとも求められている役割だと思えますね。

福岡出身の2人と、福岡でサロンワークに励む七穂さん。偶然にも福岡に縁が深い3名での対談は、大変り上がり。カンタロウさんから鳥井さんに「瀬江(大阪市)のLIM店舗、買いませんか？」なんて話も飛び出しました。

T 実ははくも11月にサロンを退職し、アカデミーの代表に専念しま

モチベーションの高いサロン環境づくりを模索する右腕の3人。小誌では、今後もう少し革新的な幹部・店長を追い続けます。

右腕はサロン理念を体現した存在。あるべき姿を常に見せていく。

(カンタロウ)